

平成21年12月8日公表

## 平成21年産水陸稲の収穫量

水稲の10a当たり収量は494kg（作況指数103）

収穫量（子実用）は12万2,000t

### 【調査結果の概要】

- 鹿児島県における平成21年産水稲の作柄は、早期栽培は、登熟期が好天候に経過したことに加え、台風等の被害がなかったことから、10a当たり収量は466kg（作況指数106）となりました。普通栽培は、生育期前半が日照不足により茎数は少なかったものの、登熟期が好天候に経過したことから、10a当たり収量は502kg（作況指数102）となりました。水稲合計の10a当たり収量は494kg（作況指数103）、収穫量（子実用）12万2,000t（前年産対比100%）となりました。また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は12万1,500tとなりました。
- 平成21年産陸稲の作付面積（子実用）は12ha（前年産対比92%）で、収穫量（子実用）は29t（同94%）となりました。

第1表 平成21年産水陸稲の収穫量

区分	作付面積 ①	10a 当たり 収量 ②	収 穫 量 ③=①×②	前年産収穫量との差		参 考				
				対 差 t	対 比 %	主食用 作付面積 ④	収 穫 量 (主食用) ⑤=④×②	10a当たり 平年収量 ⑥	作況指数 ⑦=②/⑥	
										ha
水陸稲合計	24 700	—	122 000	△ 500	100	…	…	…	…	
水 稲	平. 21 水稲計	24 700	494	122 000	△ 500	100	24 600	121 500	479	103
	早期栽培	5 800	466	27 000	△ 800	97	…	…	439	106
	普通栽培	18 900	502	94 900	△ 100	100	…	…	492	102
	20 水稲計	24 900	492	122 500	—	—	…	…	479	103
	対前年差	△ 200	2	△ 500	—	—	—	—	—	—
陸 稲	平. 21	12	242	29	△ 2	94	…	…	…	…
	20	13	238	31	—	—	…	…	…	…
	対前年差	△ 1	4	△ 2	—	—	…	…	…	…

- 注: 1 普通栽培には、二期作を含みます。  
 2 計と内訳は、ラウンドのため一致しない場合があります。  
 3 表中の「△」印は、減少したことを示します。また、「—」印は事実のないもの、「…」印は事実不詳又は調査を欠くものを示します。（以下の各表についても同じです。）

- 主食用作付面積とは、作付面積(青刈り面積を含む)から、生産調整カウントとなる米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積です。
- 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。

この資料は、九州農政局ホームページ鹿児島農政事務所サイトの「統計情報(鹿児島県)」でもご覧いただけます。

【「鹿児島農政事務所」 (<http://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/>)】

# 1 水 稻

## (1) 早期栽培

### ア 作付面積

作付面積は5,800haで、前年産に比べ150ha（3%）減少しました。

これは、生産者の高齢化や後継者不足等によるものです。

### イ 作柄概況

田植最盛期は、関係機関の移植期適正化の指導もあり、平年に比べ1日遅い4月3日となりました。

苗の活着（根付き）は、3月下旬から4月上旬の低温によりやや不良となった地域はみられたものの、総じて天候に恵まれたことから、平年並みとなりました。

茎数は、初期生育期の寒風や4月下旬から5月上旬が低温で経過したことから、分けつは抑制され、やや少なくなりました。

出穂最盛期は、5月中旬以降、高温に推移したことから、平年に比べ1日早い6月26日となりました。

穂数は、茎数がやや少なかったことから、やや少なくなりました。

1穂当たりもみ数は、気温が高めに推移したことに加え、穂数が少なかったことによる補償作用もみられ、やや多くなりました。

全もみ数は、穂数がやや少なかったものの、1穂当たりもみ数がやや多く確保されたことから、総じて平年並みとなりました。

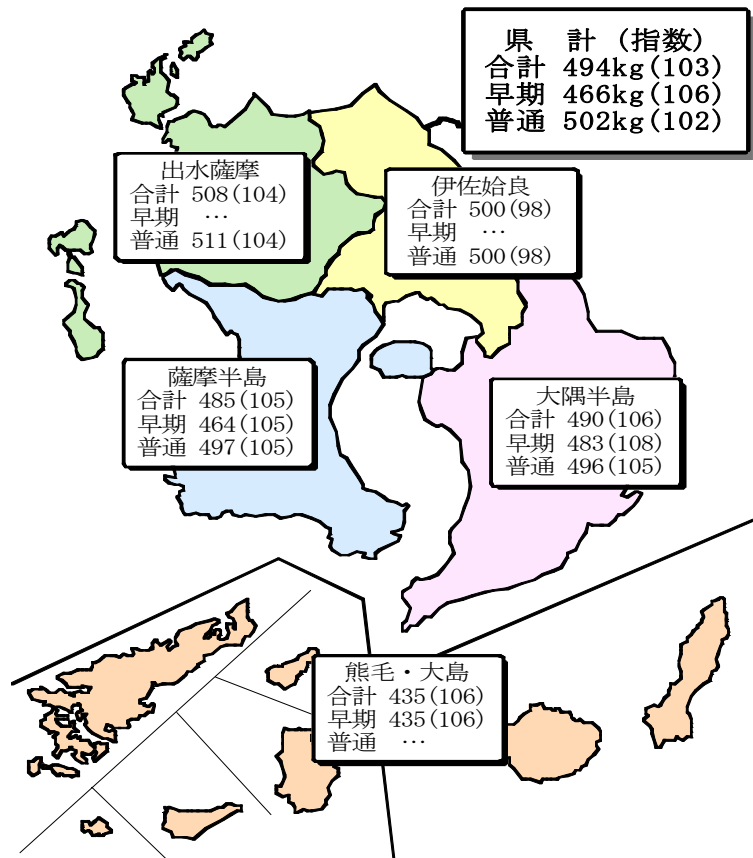
登熟は、出穂期以降7月上旬から中旬にかけて天候に恵まれ、日照時間が確保されたことと、台風の襲来もなく病害の発生も軽微であったことから、良となりました。

刈取最盛期は、平年に比べ2日遅い8月3日となりました。

被害は、初期生育期の寒風や低温、一部地域でカメムシの吸汁加害がみられましたが、台風の襲来もなく、いもち病、紋枯病等の発生が少なかったことから、平年に比べ少なくなりました。

この結果、10a当たり収量は466kg（作況指数106）となりました。

水稻の作柄表示地帯別10a当たり収量



## (2) 普通栽培

### ア 作付面積

作付面積は1万8,900haで、前年産に比べ100ha（1%）減少しました。

これは、生産者の高齢化や後継者不足等によるものです。

### イ 作柄概況

田植最盛期は、一部地域で用水不足や前作の収穫遅れ等みられたものの、平年並みの6月20日となりました。

穂数は、田植え後日照不足で経過し、分けつの発生が抑制されたことから、少なくなりました。

出穂最盛期は、7月中旬以降、高温に推移したことから、平年並みの8月26日となりました。

1穂当たりもみ数は、7月下旬から8月中旬にかけ日照不足で経過したものの、穂数が少なかったことによる補償作用から、やや多くなりました。

全もみ数は、1穂当たりもみ数はやや多かったものの、穂数が少なかったことから、総じてやや少なくなりました。

登熟は、出穂期以降9月下旬まで概ね天候に恵まれ、日照時間が多く確保され、気温日較差も大きかったことから、総じて良となりました。

刈取最盛期は、出穂期以降概ね天候に恵まれたことから、平年並みの10月14日となりました。

被害は、9月下旬以降トビイロウンカによる虫害や、秋雨前線に伴う降雨等から倒伏の発生はみられたものの、台風18号の影響も軽微で、平年に比べやや少なくなりました。

この結果、10a当たり収量は502kg（作況指数102）となりました。

## 2 陸 稲

### (1) 作付面積

作付面積は12haで、前年に比べ1ha（8%）減少しました。

これは、生産者の高齢化や収益性の低迷による生産意欲の減退によるものです。

### (2) 作柄概況

は種期以降、概ね天候に恵まれたことから生育は順調で、分けつの発生は旺盛となりました。

登熟は、出穂期以降高温、多照に恵まれたことから、粒の肥大・充実ともに良好となりました。

被害は、病害虫の発生も少なく、また、台風の影響もなかったことから、軽微となっています。

この結果、10a当たり収量は242kg（前年産対比102%）となりました。

### 3 水稻の被害概況

水稻合計の被害量の総数は1万7,100 tで、被害率14.5%となり、平年に比べ1.3ポイント減少しました。

これは、主にいもち病・紋枯病等の病害の発生が少なかったためです。

第2表 平成21年産水稻被害量

区分	被害量 t	被害率		
		本年 %	平年 %	対平年差 ポイント
<b>総数</b>	<b>17 100</b>	<b>14.5</b>	<b>15.8</b>	<b>△ 1.3</b>
<b>気象被害</b>	<b>5 200</b>	<b>4.4</b>	<b>5.4</b>	<b>△ 1.0</b>
うち風水害	2 170	1.8	3.7	△ 1.9
うち日照不足	2 050	1.7	…	…
<b>病害</b>	<b>3 670</b>	<b>3.1</b>	<b>6.6</b>	<b>△ 3.5</b>
うちいもち病	1 970	1.7	2.9	△ 1.2
うち紋枯病	1 430	1.2	2.5	△ 1.3
<b>虫害</b>	<b>7 680</b>	<b>6.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.0</b>
<b>その他</b>	<b>559</b>	<b>0.5</b>	<b>0.3</b>	<b>0.2</b>

注:1 被害率は、平年収量に対する被害量の比率であり、被害の程度を表す指標です。

2 気象被害のうち、「日照不足」については、平成14年より気象被害について表章区分の見直しを行ったことから、平年差を比較していません。

#### 【統計表】

#### 平成21年産水稻（作柄表示地帯別）

##### 1 早期栽培

区分	作付面積 (子実用)			10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)			(参考)	
	①	前年産との比較			③=①×②	前年産との比較		10 a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=②/④
		対差	対比			対差	対比		
県計	5 800 <sup>ha</sup>	△ 150 <sup>ha</sup>	97 <sup>%</sup>	466 <sup>kg</sup>	27 000 <sup>t</sup>	△ 800 <sup>t</sup>	97 <sup>%</sup>	439 <sup>kg</sup>	106
薩摩半島	1 580	△ 60	96	464	7 330	△ 410	95	440	105
大隅半島	2 830	△ 90	97	483	13 700	△ 100	99	449	108
熊毛・大島	1 160	10	101	435	5 050	△ 20	100	412	106

##### 2 普通栽培

区分	作付面積 (子実用)			10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)			(参考)	
	①	前年産との比較			③=①×②	前年産との比較		10 a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=②/④
		対差	対比			対差	対比		
県計	18 900 <sup>ha</sup>	△ 100 <sup>ha</sup>	99 <sup>%</sup>	502 <sup>kg</sup>	94 900 <sup>t</sup>	△ 100 <sup>t</sup>	100 <sup>%</sup>	492 <sup>kg</sup>	102
薩摩半島	2 690	△ 40	99	497	13 400	200	102	473	105
出水薩摩	6 050	△ 40	99	511	30 900	300	101	491	104
伊佐始良	6 620	0	100	500	33 100	△ 700	98	512	98
大隅半島	3 550	0	100	496	17 600	300	102	471	105

注:1 数値は、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合があります。

2 表中の△は、減少したものを示します。

(参考1)

### 平成21年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規定三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.7mm以上で選別された玄米の重量としています。

なお、農家等が選別に用いるふるい目幅は、1.80mmが多くなっています。ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量は次のとおりです。

単位 { 重量割合：%  
平均対差：ポイント

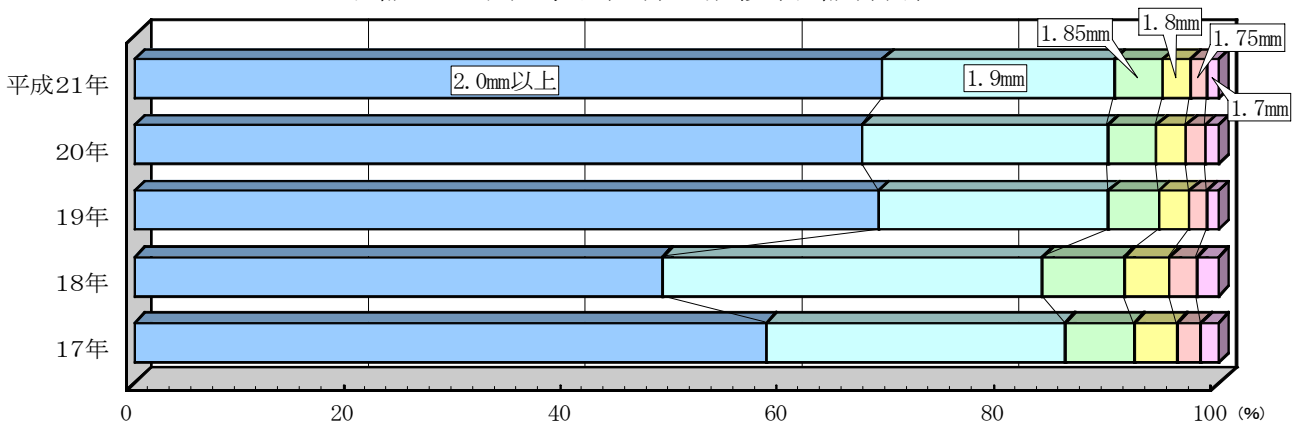
区分	合計	ふるい目幅					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
水稻合計重量割合	100.0	69.1	21.3	4.5	2.5	1.6	1.0
平均対差		9.5	△ 6.0	△ 1.3	△ 1.1	△ 0.6	△ 0.5
早期水稻重量割合	100.0	66.6	23.4	4.9	2.5	1.5	1.1
平均対差		10.3	△ 6.4	△ 1.7	△ 1.3	△ 0.6	△ 0.3
普通水稻重量割合	100.0	69.8	20.6	4.4	2.5	1.7	1.0
平均対差		9.4	△ 6.0	△ 1.2	△ 1.1	△ 0.5	△ 0.6

単位:kg

区分	合計 (1.70mm選別)	選別ふるい目幅別10a当たり収量					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	
県計	494	341	447	469	481	489	
地帯別	薩摩半島	485	299	424	452	469	479
	出水薩摩	508	394	471	489	498	504
	伊佐始良	500	335	447	470	485	494
	大隅半島	490	327	444	466	477	484
	熊毛・大島	435	305	385	410	423	431
作期別	早期栽培	466	310	419	442	454	461
	普通栽培	502	350	454	476	488	497

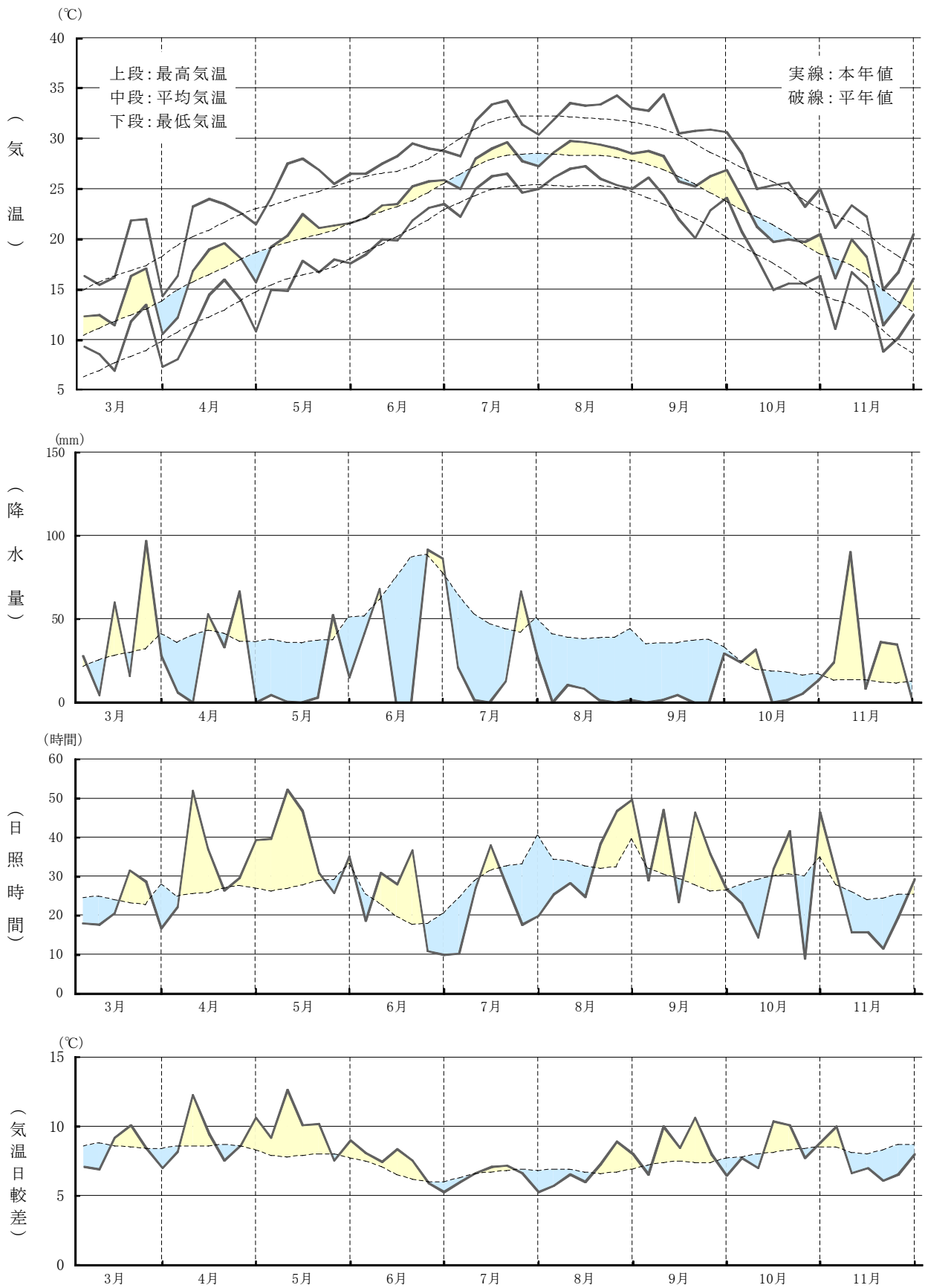
- 注: 1 平均対差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。  
 2 台風等により未熟粒・被害粒等の混入が多く、農産物検査規格三等の品位に達しない場合は再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。  
 3 選別ふるい目幅別10a当たり収量は、10a当たり収量に、ふるい目幅別重量割合を乗じて算出してあります。  
 4 表中の「△」は、平均より少ないことを示します。

### 水稻の玄米粒厚別割合の推移(水稻合計)



( 参 考 2 )

### 平成21年産水稻生育期間における鹿児島県の気象

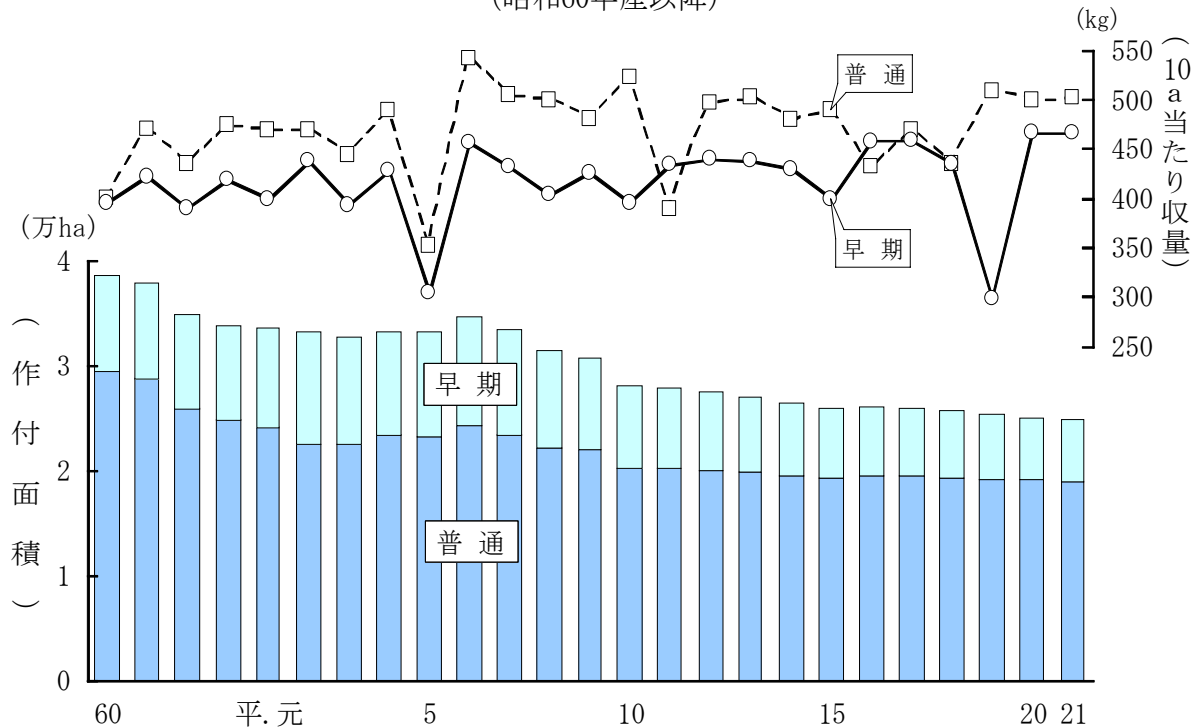


資料：鹿児島地方気象台「アメダス気象データ」 観測地点：鹿児島

(参考3)

### 水稻作付面積及び10 a 当たり収量の推移

(昭和60年産以降)



#### 【調査の仕様】

- 1 本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び稲調査の中の水陸稲の収穫量調査として実施し、水陸稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。
- 2 作柄概況の地帯別は、主要作付地帯（1,000ha以上）を掲載しています。
- 3 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率です。
- 4 要旨及び解説に用いた作柄の表示区分及び地帯区分は、次のとおりです。

多 少 (良 否)	少 ない (不 良)	やや少ない (やや不良)	平 年 並 み	や や 多 い (や や 良)	多 い (良)
対 平 年 比	94 % 以下	95 ~ 98 %	99 ~ 101 %	102 ~ 105 %	106 % 以上

#### 地 帯 区 分 (平成21年4月1日現在)

薩 摩 半 島 --- 鹿児島市、枕崎市、指宿市、日置市、いちき串木野市、南さつま市、南九州市、鹿児島郡  
 出 水 薩 摩 --- 阿久根市、出水市、薩摩川内市、薩摩郡、出水郡  
 伊 佐 始 良 --- 霧島市、伊佐市、始良郡  
 大 隅 半 島 --- 鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、曾於郡、肝属郡  
 熊 毛 ・ 大 島 --- 西之表市、奄美市、熊毛郡、大島郡

5 統計数値のラウンド方法は、次のとおりです。

原 数		7けた以上 (100万)	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1 000)	3けた (100)
ラウンドするけた(下から)		3けた	2けた		1けた	ラウンドしない
例	ラウンドする前(原数)	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
	ラウンドした数値(統計数値)	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

6 用語の解説

- **早期栽培**とは、出穂期の台風被害が作柄に大きく影響するので、台風の襲来しやすい8～9月に出穂となることを避けることなどから、8月中旬頃までに収穫する目的で作付けされている栽培方法です。
- **穂数**とは、1㎡あたりに出穂したすべての穂の数です。穂数は収量決定に当たって重要な要素の一つです。
- **全もみ数**とは、1㎡当たりの全てのもみ数のことです。収量決定に当たって極めて重要な要素です。
- **登熟**とは、開花、受精したのち、実が肥大し熟れていくことを登熟といいます。稲の生育状態や気象条件、病害虫などの影響を受け、収量に直接関係します。
- **10a 当たり平年収量**とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量の趨勢を基に作成したその年に予想される10a 当たり収量をいいます。
- **被害面積**とは、農作物に損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量）から減収した面積をいいます。
- **被害量**とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量）より減収した量をいいます。

【関連リンク】

- 農林水産政策関連ページ <http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>
- 食料政策関係ページ <http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>
- 農業生産振興関係ページ <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部  
生産流通消費統計課 生産統計係  
電 話：(直通) 099(222)7546  
F A X： 099(224)1501

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部  
統計企画課 企画・分析係  
電 話：(直通) 099(222)7523  
F A X： 099(224)1501



**平成22年2月1日現在で、2010年世界農林業センサスを実施します。**  
**調査員がお伺いしましたら、ご協力をお願いします。**

農林業センサスホームページURL：<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/>